

20年に及ぶ大規模アンケートが 示す科学技術分野における ジェンダーギャップの変遷

志牟田 美佐

東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 神経科学研究部
（一社）男女共同参画学協会連絡会 アンケートWG委員長

男女共同参画を推進します

科学技術分野の未来のために

私たちは、



男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

大規模アンケートの目的と意義

(科学技術系専門職の男女共同参画実態調査)

- 科学技術系専門職の実態把握と課題を抽出し、データに基づいた提言・要望書を作成
- 科学技術・イノベーション基本計画、男女共同参画基本計画事業に要望・提言を反映させる
- 継続的な定点調査により科学技術専門職の実態や意識を追跡し、施策の反映度も調査



男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

20年に及ぶ大規模アンケートが示す科学技術分野におけるジェンダーギャップの変遷

大規模アンケートから抽出された課題

① ライフイベントと研究の両立に関する経年比較

配偶者/パートナー

職の都合による別居の経験

子どもの数

子どもの数が理想より少ない理由

② 役職指数と研究時間が示すジェンダーギャップ

③ 任期付き研究者の現状

年齢別雇用形態、年収、社会保障

任期期間の変動（雇止め）

20年に及ぶ大規模アンケートが示す科学技術分野におけるジェンダーギャップの変遷

大規模アンケートから抽出された課題

① ライフイベントと研究の両立に関する経年比較

配偶者/パートナー

職の都合による別居の経験

子どもの数

子どもの数が理想より少ない理由

② 役職指数と研究時間が示すジェンダーギャップ

③ 任期付き研究者の現状

年齢別雇用形態、年収、社会保障

任期期間の変動（雇止め）

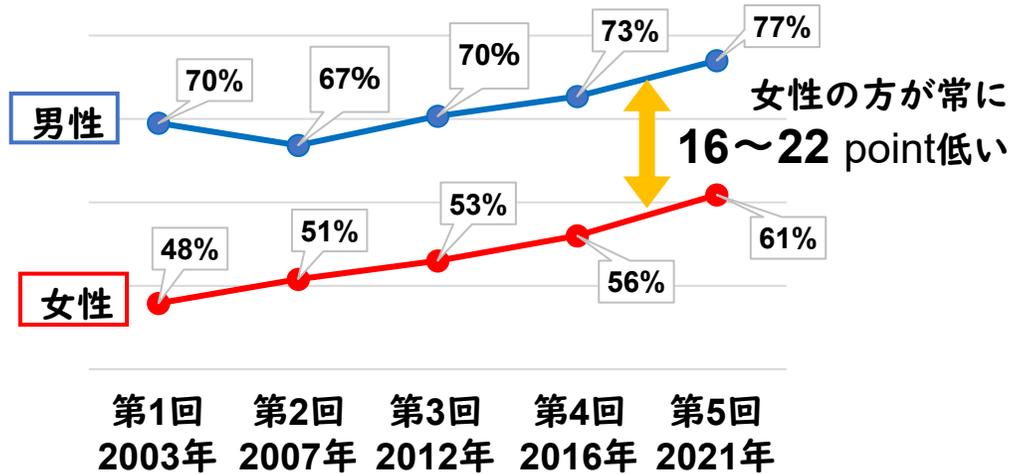
大規模アンケートから抽出された課題 ライフイベントと研究の両立に関する経年変化

(2003年～2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)



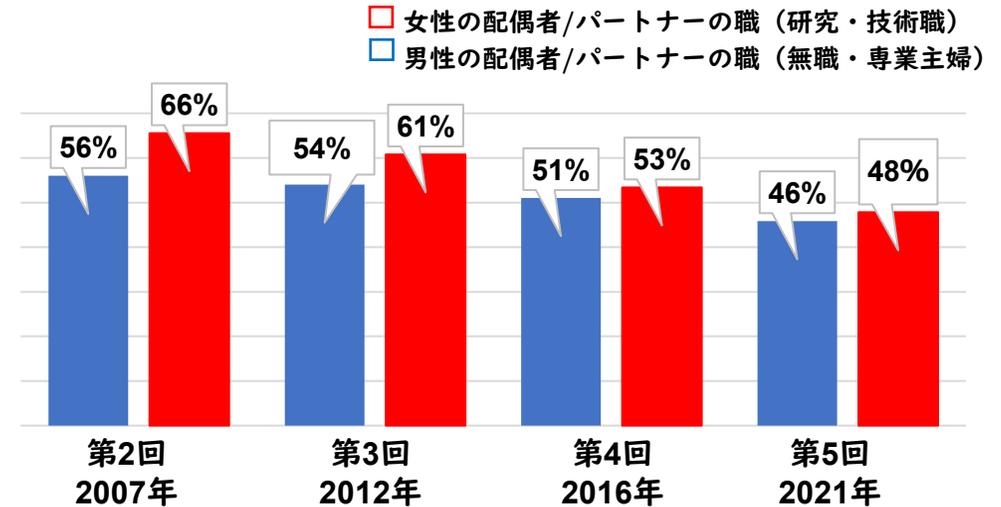
男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

配偶者/パートナーを有する者の割合



第1回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志牟田美佐が作成 (2022年)

配偶者/パートナーの職



第2回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志牟田美佐が作成 (2022年)

2003年以降、配偶者/パートナーを有する割合は、女性は男性より約20point低い

男性の配偶者/パートナー (妻) の約50%は無職 (専業主婦)

女性の配偶者/パートナー (夫) の約50%が
研究職・技術職 (同業者)

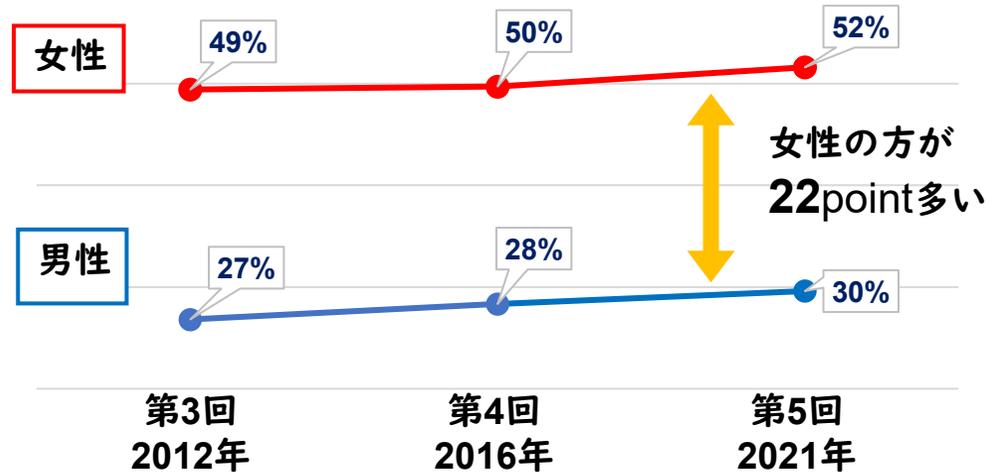
大規模アンケートから抽出された課題 ライフイベントと研究の両立に関する経年変化 別居の経験

(2012年～2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)



男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

職の都合により別居を経験した割合



第3回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志牟田美佐が作成 (2022年)

- 配偶者/パートナーを有する男性の約30%、女性の約50%に職の都合による別居の経験あり
- 男女ともに別居経験率は微増傾向

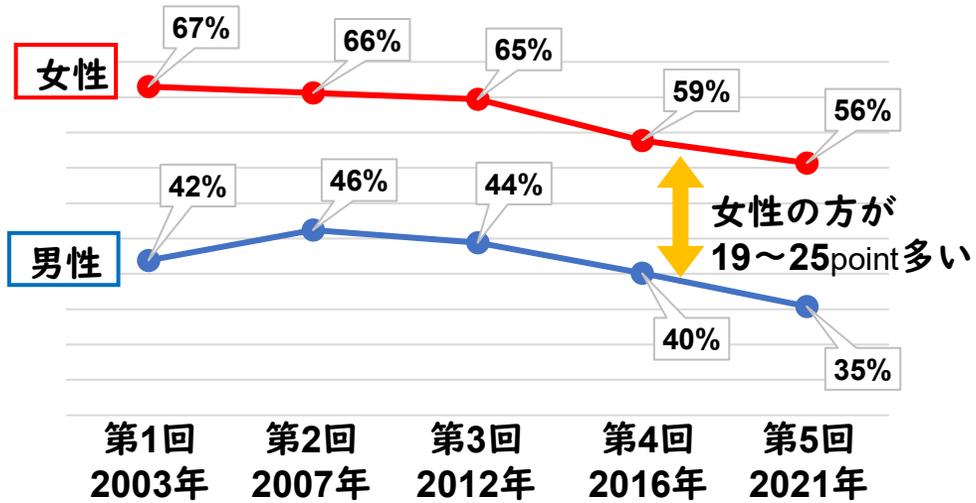
大規模アンケートから抽出された課題 ライフイベントと研究の両立に関する経年変化 子どもの数

(2003年～2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)



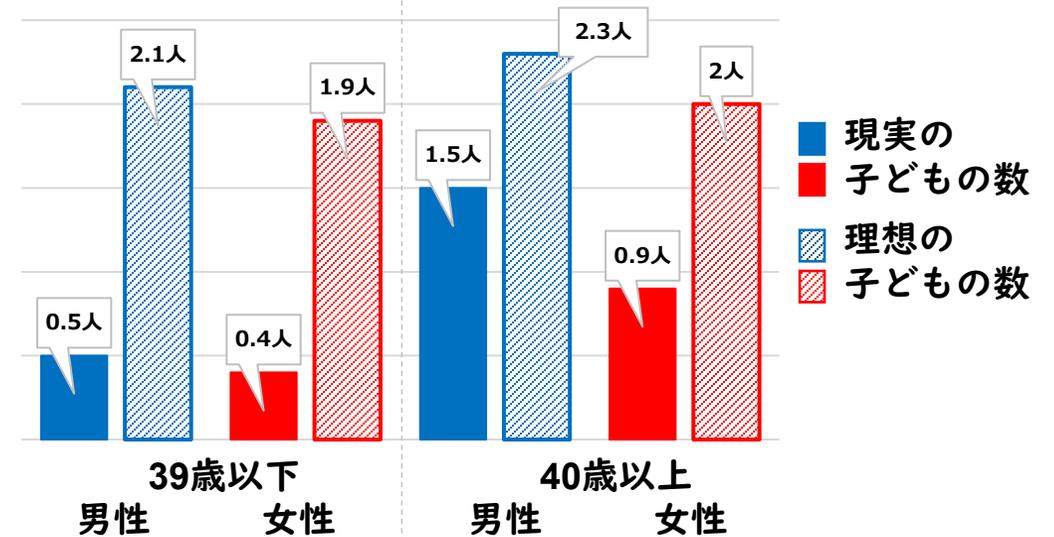
男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

子どもがいない回答者の割合



第1回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志牟田美佐が作成 (2022年)

子どもの数の現実と理想 (第5回2021年)



子どもがいない割合は、2003年以降、
女性は男性より約20point多い

理想と現実の乖離は女性で大きい

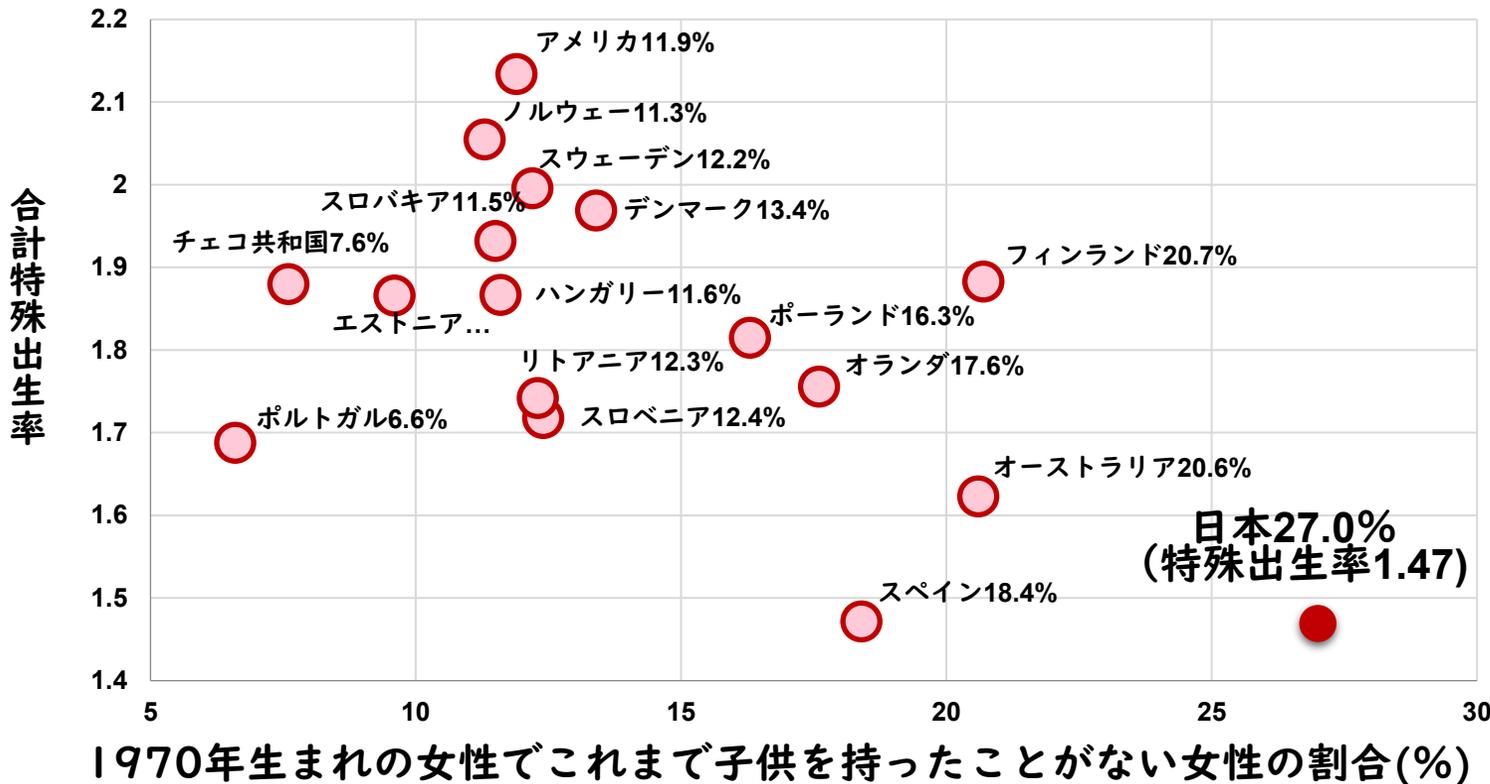
先進国で生涯子どもを持たないと推測される女性の割合

Chart SF2.5.B Definitive childlessness and completed fertility rates (Updated: 21-12-2018)

OECD Family Database <http://www.oecd.org/els/social/family/database.htm>



男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>



OECDのデータベース（2018年）より、
・日本の出生率は先進国の中で最低
・生涯子供を持たないと推測される女性の割合は27.0%と最も高い

第5回（2021年）大規模アンケートより、
科学技術系女性研究者における子供の数の平均は1.0以下
子供を持たない女性研究者の割合は56%

大規模アンケートから抽出された課題

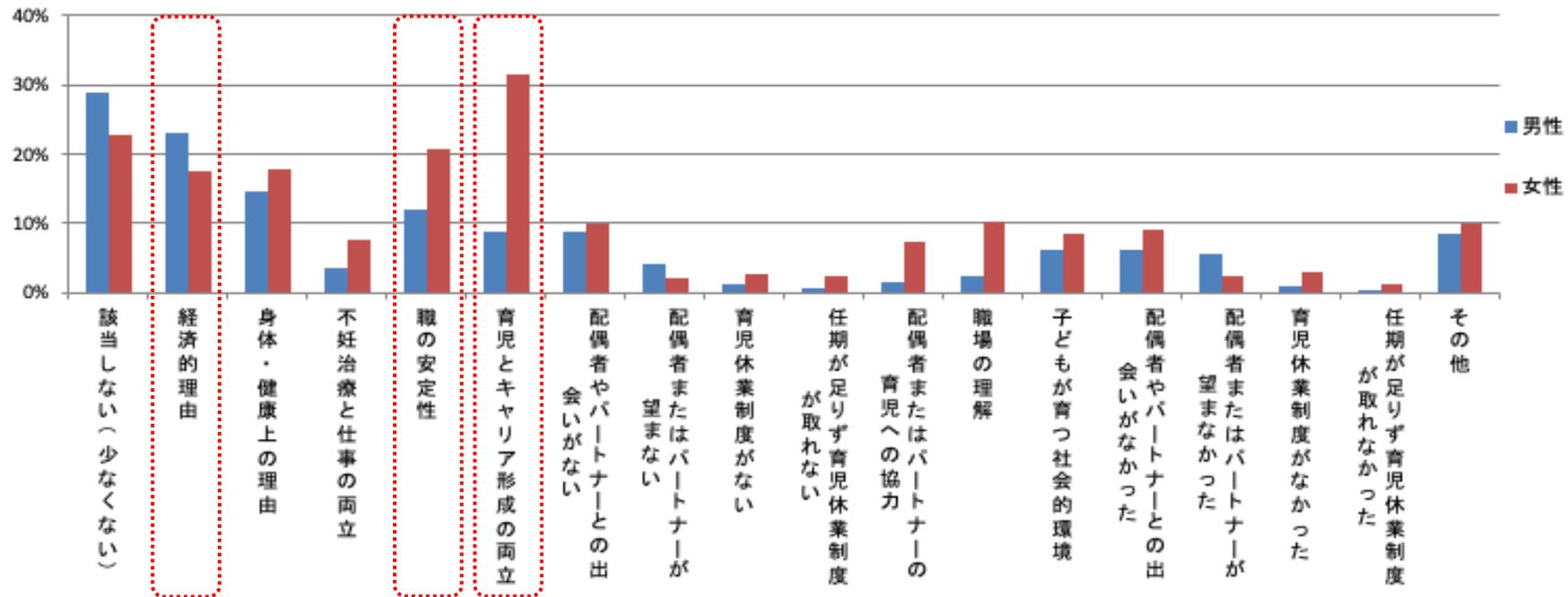
ライフイベントと研究の両立に関する経年変化 子どもの数が少ない理由

(2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)



男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

子どもの数が理想より少ない理由（複数回答）（第5回2021年）



最も多い子どもを持たない理由

- ・ 男性「経済的理由：23%」
- ・ 女性「育児とキャリア形成の両立：32%」

子どもを持たない理由として、第5回調査では男女ともに「職の安定性」が以前より増加

20年に及ぶ大規模アンケートが示す科学技術分野におけるジェンダーギャップの変遷

大規模アンケートから抽出された課題

① ライフイベントと研究の両立に関する経年比較

配偶者/パートナー

職の都合による別居の経験

子どもの数

子どもの数が理想より少ない理由

② 役職指数と研究時間が示すジェンダーギャップ

③ 任期付き研究者の現状

年齢別雇用形態、年収、社会保障

任期期間の変動（雇止め）

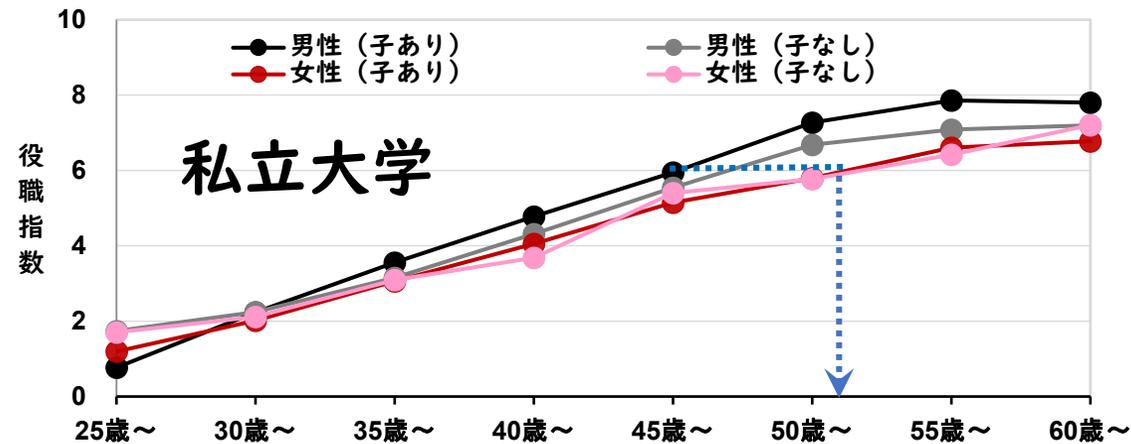
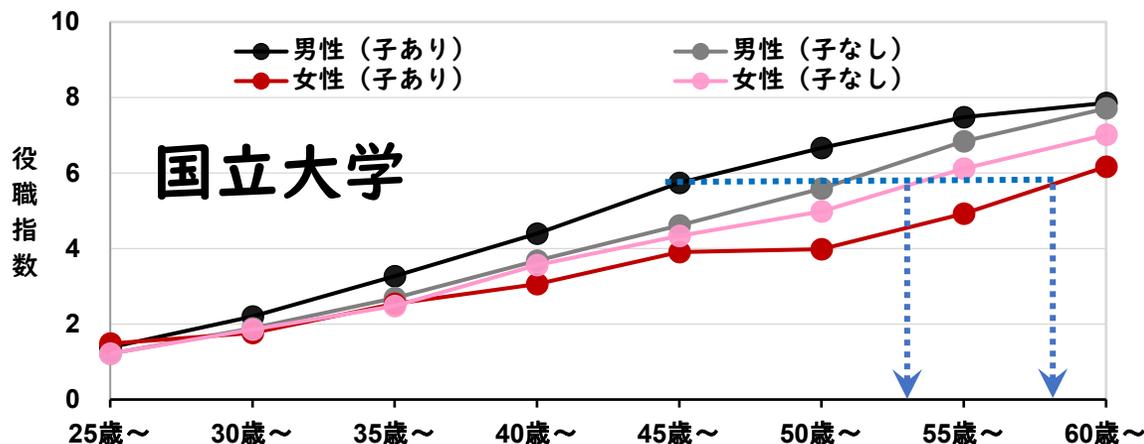
大規模アンケートから抽出された課題 役職指数と研究時間が示すジェンダーギャップ

(2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)



男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

青点線矢印は男性45～50歳未満の役職指数に女性が到達する年齢を示す



国立大学

45～50歳未満の男性の役職指数に到達するには、
子どもがいない女性で約7年、
子どもありの女性で約12年遅れる

私立大学

45～50歳未満の男性の役職指数に到達するには、
女性は子どもの有無に関係なく、
約5年遅れる

大規模アンケートから抽出された課題 役職指数と研究時間が示すジェンダーギャップ

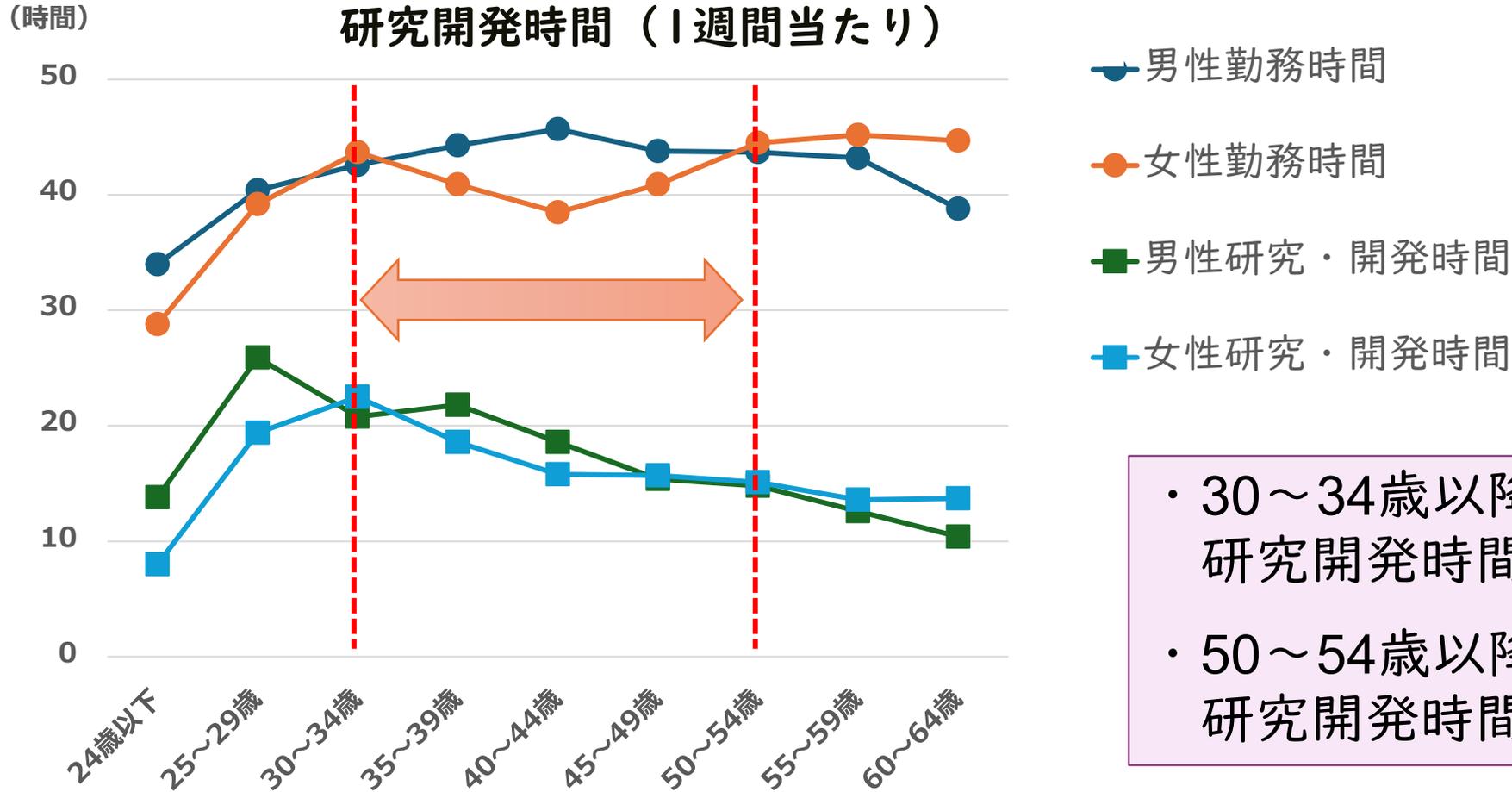
(2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)

研究時間



男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

男女別年齢別職場での在職場時間、および 研究開発時間（1週間当たり）



- ・ 30～34歳以降に女性の勤務時間、研究開発時間が男性より減少
- ・ 50～54歳以降では女性の勤務時間、研究開発時間が男性より増加

20年に及ぶ大規模アンケートが示す科学技術分野におけるジェンダーギャップの変遷

大規模アンケートから抽出された課題

① ライフイベントと研究の両立に関する経年比較

配偶者/パートナー

職の都合による別居の経験

子どもの数

子どもの数が理想より少ない理由

② 役職指数と研究時間が示すジェンダーギャップ

③ 任期付き研究者の現状

年齢別雇用形態、年収、社会保障

任期期間の変動（雇止め）

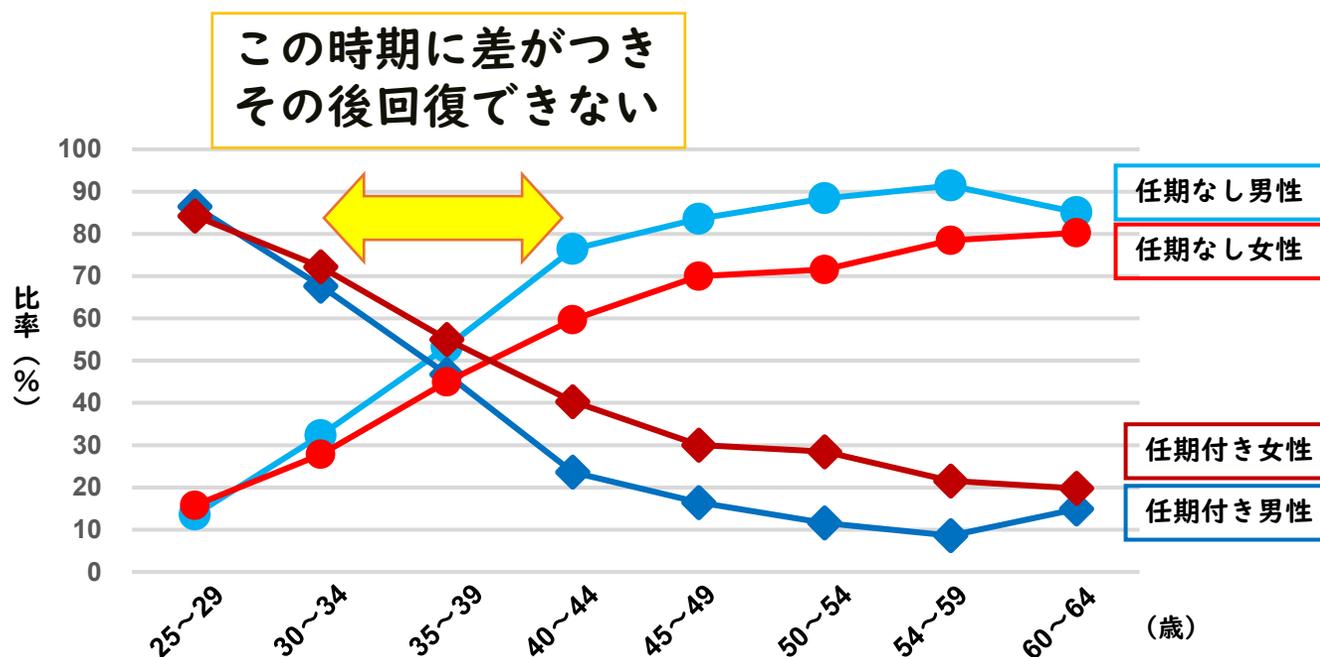
大規模アンケートから抽出された課題 任期付き研究者の現状 年齢別雇用形態

(2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)



男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

年齢別雇用形態 大学・高専等 (第5回2021年)



- ・ 任期なし職の割合は30歳代で男女差が生じ、女性は男性より約5年遅れて増加
- ・ さらに、女性の方が任期なし職が少ない状況はその後も継続する

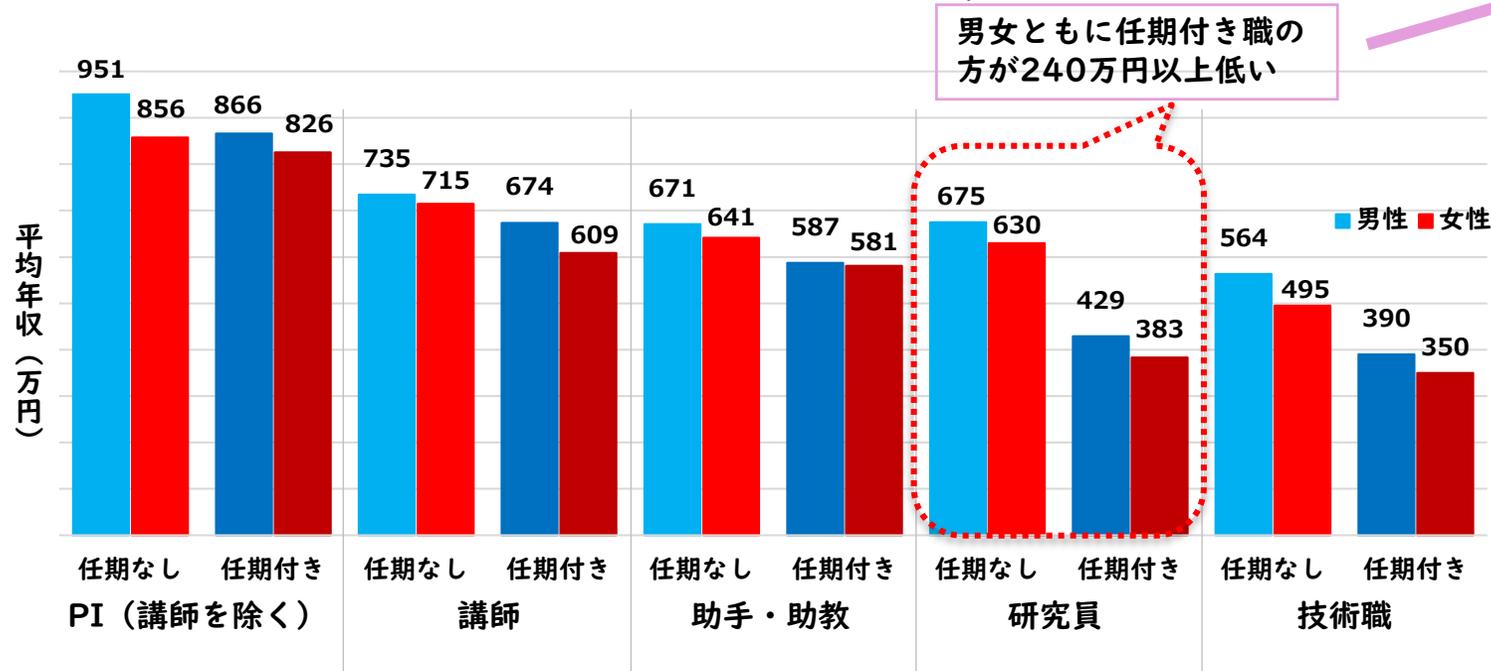
大規模アンケートから抽出された課題 任期付き研究者の現状 年収

(2021年男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)

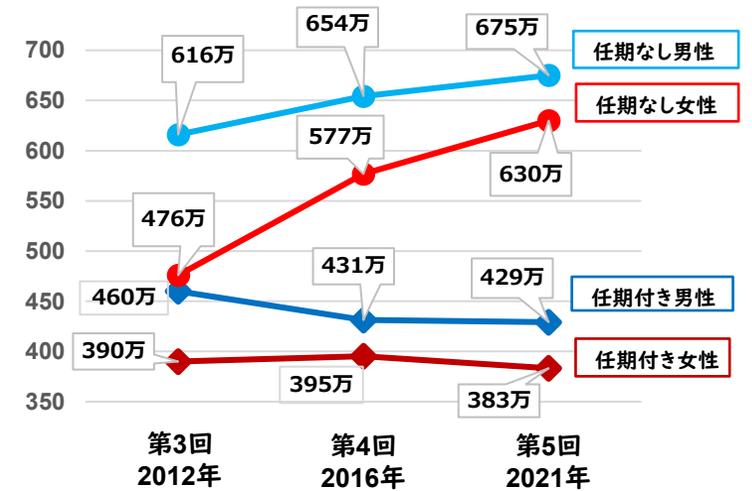


男女共同参画学協会連絡会
https://www.djrenrakukai.org

大学・高専/研究機関の雇用形態と平均年収（第5回2021年） （役職・男女別、在職場時間40時間/週以上のみ）



大学・高専及び研究機関に所属する 研究員の平均年収の経年変化



第3回～5回 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート報告書をもとに
志牟田美佐が作成 (2022年)

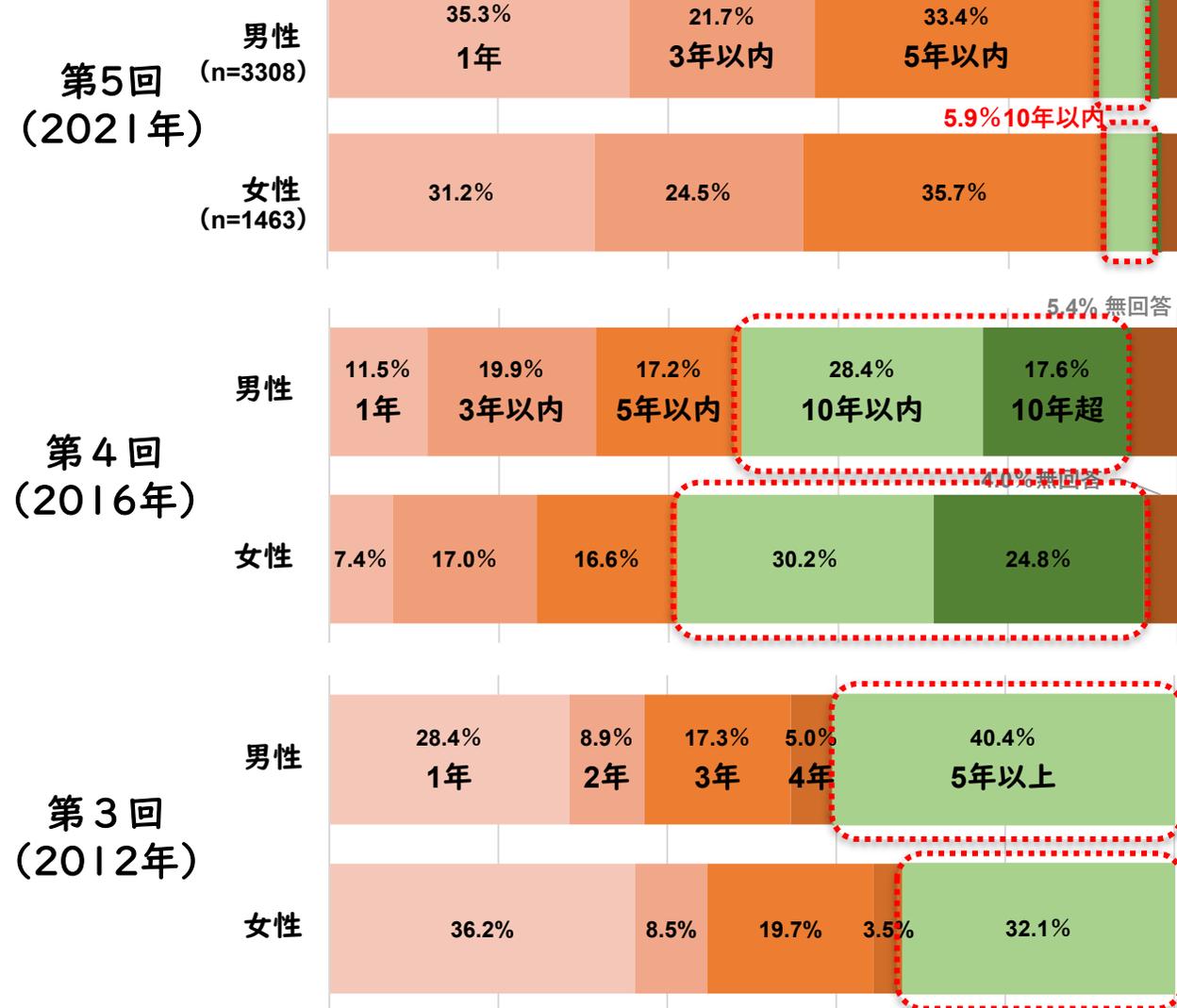
- ・ 第3回調査（2012年）以降、いずれの職位も、任期付き職は任期なし職に比べて平均年収が低く、特に研究員でその差が顕著
- ・ 職域や雇用形態にかかわらず、依然として女性の方が年収は低い

**任期付き研究員のみ
平均年収が経年的に減少**



経年比較で明らかになった任意付き研究者の雇止めの現状

現職の任期年数



①任期年数5年以下の割合が激増

男性：第4回48.6% ⇨ 第5回男性90.4%
 女性：第4回41.0% ⇨ 第5回女性91.4%

②任期年数5年以上の割合が激減

第3回調査：5年以上約30%～40%
 第4回調査：5年以上約50%～55%
 第5回調査：5年以上 約7%

この減少は改正労働契約法（無期転用ルール等：2013年4月1日施行）により、5年または10年を越えての非正規雇用が禁止されたことに伴うものと思われる

**研究者は一朝一夕には育ちません！
 即戦力となる研究者の減少は、
 我が国の研究力低下に直結します**

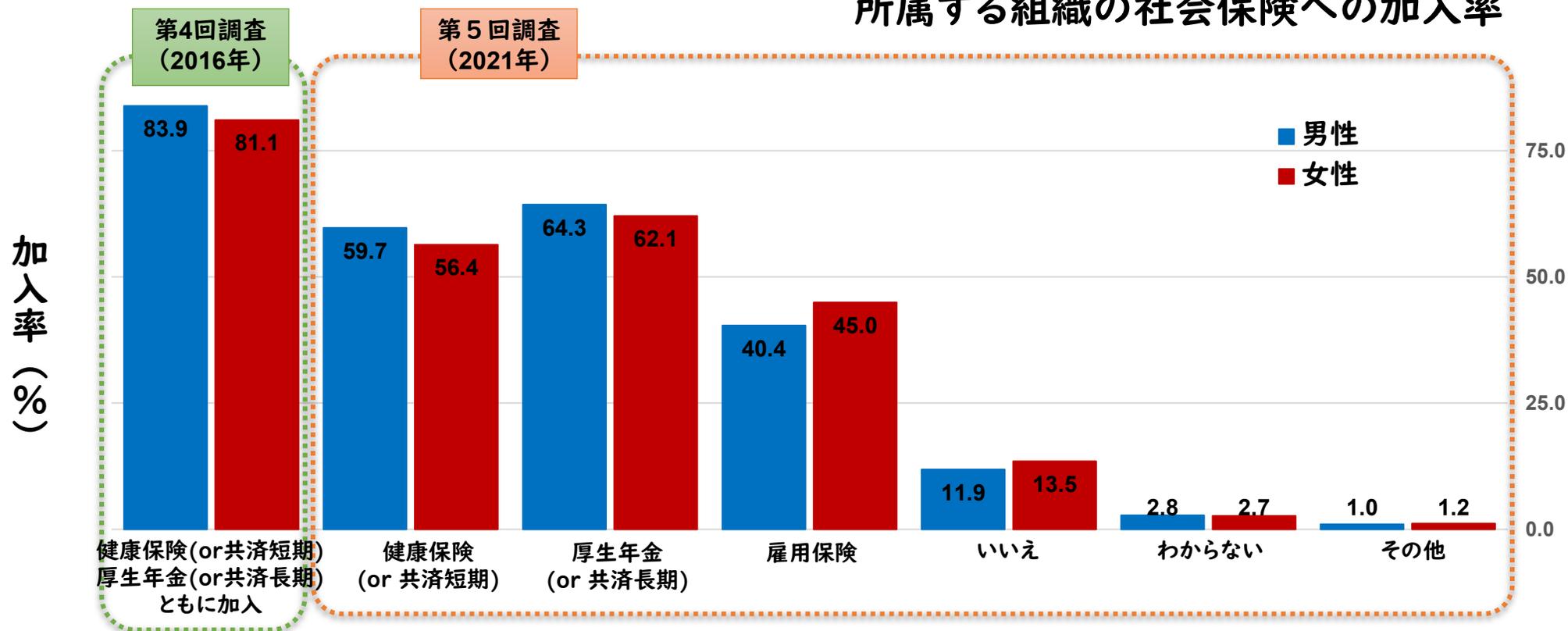
大規模アンケートから抽出された課題 任期付き研究者の現状 社会保障

(2016年～2021年 男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートから)



男女共同参画学協会連絡会
<https://www.djrenrakukai.org>

所属する組織の社会保障への加入率



- ・ 2016年と比較して、所属する組織で社会保障制度が適用されている割合が減少している
- ・ 雇用保険に加入している任期付き研究者の割合は5割に満たない

20年に及ぶ大規模アンケートが示す科学技術分野におけるジェンダーギャップの変遷 まとめ

- 女性が配偶者/パートナー、および子供を持ちにくい状況は変化していない
- 依然として職の都合による別居率は女性で高く、微増している
- 子どもの数が少ない理由として「職の安定性」を挙げる割合が増えている
- 女性は子供の有無にかかわらず、男性より5年～10年ほど昇進が遅い
- 任期付き職は、任期無し職に比べて依然として年収が低いだけでなく、社会保障制度の適用を受けている割合さえも減少している
- 改正労働契約法以降、任期付き職の任期が5年以下に集中しつつあり、5年以上、とりわけ10年を超える長期任期はほとんど見られなくなった
- 任期付き職の割合は女性の方が依然として多い

